

# KAWASAKI Coastal Area News

川崎臨海部

Vol.23



 川崎市  
KAWASAKI CITY

臨海部国際戦略本部  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1  
TEL 044-200-3634 FAX 044-200-3540  
<http://www.king-skyfront.jp/>

—川崎の南端は世界の最先端—

令和元(2019)年12月発行

## 川崎臨海部の豊かな自然

—多摩川河口干潟の魅力とは—

キング スカイフロントの  
目の前で開催された  
「2019年度 多摩川河口干潟の  
生きもの観察会」

川崎臨海部の豊かな自然

# 世界的にも珍しい 都市部に隣接する 「多摩川河口干潟」

日本経済を支える重化学工業が盛んで、世界最先端の研究開発拠点が集積する川崎臨海部ですが、そこには意外にも豊かな自然が共存しています。



(上)潮が引いてくると、どこからともなく多数のカニが現れる  
(下)夢中になってカニを採取する参加した子ども達  
※安全のためライフジャケットを着用しています

## 豊かな自然の恵みを与える干潟

令和元(2019)年9月28日(土)、川崎市環境総合研究所主催による「2019年度 多摩川河口干潟の生きもの観察会」が、特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワークの協力により開催されました。参加者は市内の小学生親子23組59名。イベント当日は快晴の秋空のもと、必死にカニを捕まえながら、身近で意外な場所の豊かな自然に気付いた参加者たちが、環境保護を見つめ直す良いきっかけとなりました。

干潟は、川の上流の栄養分を豊富に含んだ土砂が運ばれ、河口で堆積して出来たもので、潮の満ち引きにより姿を現したり水中に隠れたりして様々な顔を持つ、砂と泥で出来た平らな地形です。そこには、魚類やカニ、貝類から水鳥など多くの生物が生息し、藻類が光合成でたくさんの有機物と酸素を生産するほか、貝などによる水の浄化作用もあり、自然環境保持に役立っていると同時に親水の場にもなっています。

## 干潟観察をきっかけに 水質保全への意識を高める

鶴見川流域ネットワーク事務局長の小林和範氏は次のように話す。『関東では千葉県しほんせつの潮干狩りは知られていますが、東京や神奈川県しほんせつの干潟にはあまり馴染みがないと思います。しかし川崎市殿町周辺の多摩川河口干潟は規模も大きく、とても貴重な存在です。都市部の河川は洪水対策のために浚渫されて、「土手(陸)」と「川(水)」のみの場合が多いのですが、多摩川河口干潟には潮の干満で微妙に変化する自然環境のグラデーションがあります。生物にはその種ごとに好む環境があり、それが多様であれば生息する生物も多様になり、多摩川河

口干潟では十数種のエビやカニをはじめ、ハゼやボラなどの魚類から貝類やゴカイ類まで、実に多種多様な生物を観察できるんです。とかく『河川の水質保全は企業の責任』と思われがちですが、これからは生活者の一人ひとりが意識するべき時代です。干潟や河川の役割と恵みを知ることで、将来を担う子ども達の意識が高まることを期待しています』

ベストシーズンは春先から初夏ということですが、インターネット等で潮見表を確認し、一度多摩川河口干潟を体感されてはいかがでしょうか。



(上)採取したカニをスケッチすることで新たな発見が  
(下)採取したカニや貝類は、スケッチ教室の後で元の干潟に戻されます



# 敷地内にある自然豊かに育った緑地で 生物多様性の保全活動を行っています

## 花王株式会社 川崎工場

日々の暮らしに必要不可欠な家庭用品を製造している花王株式会社。  
川崎工場の敷地内にある7,000㎡ほどの“自然の森”は、国道409号から私たちも見る事ができます。  
花王の環境活動について、川崎工場の皆さんに伺いました。

### 生物多様性保全に 取り組む背景

花王の事業活動は、原材料調達や生産、物流、販売、使用、廃棄など、製品に関わるすべてのサイクルの中で、天然資源や水などの生物多様性の恵みを受けています。一方で、植物油脂の調達、生産に用いる水や排水、包装容器の廃棄や焼却など、さまざまな場面で生物多様性に影響を与えています。そのため、花王では、2011年に、国際的な取決めの遵守などを定めた「生物多様性保全の基



敷地内に広がる7,000㎡ほどのまとまった緑地

### 多様な植物や生物が 混在する緑地に

本方針」を策定し、それらをもとに、地域社会との調和を前提として、各事業所内やその周辺の森林、河川、湿地、海洋などで生態系に配慮した事業活動を進めています。

国内に10カ所ある工場の中で、臨海部に位置する川崎工場では、よきモノづくり」を基盤として、低環境負荷、低コスト、高効率生産を目指しながらシャンプーやリンス、洗濯洗剤などといった家庭用製品を製造・出荷しています。川崎工場には7,000㎡ほどのまとまった緑地があり、造設当時の工場長の方針で、2013年頃より15年以上、人の手を加えず自然の状態を維持してきたため、そこは多様な植物が育つ「自然の森」になり、花や実のなる植物を植え、鳥類用の巣箱や水飲み場を設置するなど、生物多様性への取組が始まりました。また、間伐した木材を従業員の休憩用のイスに利用するなど、今では自然の恵みを最大限に活用しています。モニタリング結果では、237種の植物、21種の鳥類、100種の昆虫類が確認されました。麝香に似た匂いをさせ、赤と黒の色彩が特徴的なジャコウアゲハや、その食草のウマノスズクサの植生も確認され、現在、それらの保護に力を注いでいます。

### 2018年に ABINNC認証を取得

川崎工場は2018年に、ABINNC「いきもの共生事業所」認証を取得しました。ABINNC「いきもの共生事業所」認証とは、「一般社団法人 企業と生物多様性イニシアチブ(JBB)」が開発した「いきもの共生事業所推進ガイドライン」に基づき、生物多様性に配慮した緑地づくりなどの取組を第三者評価によって認証する制度です。2015年には鹿島工場が取得し、川崎工場は2例目となりました。

川崎工場では、今後も川崎市環境局と協議を重ね、「自然の森」の見学会などを通じた環境教育や臨海部多摩川水域の環境保全にも貢献していく所存です。



左から、奥村正秀さん(工場長)・山本友秋さん(プロダクション部門 成形包装)・岡宏和さん(プロダクション部門 部長)・小祝陽介さん(地区サービスセンター 人事総務 課長)



【羽田連絡道路】の工事風景(令和元(2019)年9月28日撮影)  
写真手前が殿町エリアの自然豊かな干潟、対岸に見えるのが羽田空港

## 9月30日、羽田連絡道路の橋桁設置を開始

ライフサイエンス分野における世界最先端の研究開発エリア、殿町国際戦略拠点キング スカイフロント。

羽田空港とキング スカイフロントを結ぶ羽田連絡道路は、平成29(2017)年に着工し、台風などの自然災害の影響を受けていますが、2020年度内の開通を目指し整備を進めています。

全長840メートルの道路が開通すればキング スカイフロントから羽田空港まで車で約5分で着くことができるようになります。

この橋は、環境への配慮や調和を最大限に考慮した構造となっています。貴重な河口干潟を守るため河川内の橋脚数を極力少なくすることや、鳥の動きや河口の広がりを感じる景観との調和に配慮し橋面に突起物のないシンプルな桁橋を採用しています。

また、干潟の一部を掘った際に出た表層の土を一旦保管し、埋め戻す際に再使用するなど干潟の回復を図

るとともに、定期的な環境モニタリング調査を行い、工事の影響を確認しながら、環境の保全に取り組んでいます。

羽田連絡道路は、羽田空港を中心とした一体的な成長戦略拠点の形成を支える重要な橋であり、国内外の研究者同士が交わり、さらには川崎臨海部の最先端技術と世界の産業をつなぐ架け橋となるでしょう。



羽田空港側から見た完成イメージ



## INFORMATION 『なるほど川崎臨海部 inラゾーナ』が開催されます!

川崎市では、日常生活では中々気づかれないところで市民生活を支えている川崎臨海部での取組をより多くの方々に知っていただくことを目的に、『なるほど川崎臨海部 inラゾーナ』を開催します。テーマは「川崎の南端は世界の最先端～密かに私たちを支える技術たち～」。

川崎臨海部は、日本の産業活動を支える鉄鋼、機械、エネルギー、物流、ものづくりなどの優れた高い技術力と、健康、医療、福祉に関する高度な研究開発が調和・融合して新しい価値を生み出し、国内外に発信している世界の最先端エリアであり、未来はそこから始まっています。

今回は「最先端のものづくり技術」「水素エネルギー」「キング スカイフロント」を中心にご紹介します。体験コーナーもありますので、ぜひ遊びに来てください。

**開催日:** 令和2(2020)年2月29日(土)～3月1日(日)

**開催時間:** 10:00～18:00

**場所:** ラゾーナ川崎プラザ2階(ショッピングフロア通路)

**実施内容:** パネルの展示、動画放映、クイズラリー、  
臨海部企業による体験コーナー など

※詳細は臨海部国際戦略本部

☎044-200-2945 / 59jigyo@city.kawasaki.jp まで